

レジュメ「愛をもって教会を建てあげる」I コリント 14:1-25

2026.1.4 礼拝

【序論】12章・13章から14章へ(流れの確認)

- ・ Iコリント12章:教会はキリストのからだ。賜物の違いは比較や分断の理由ではなく、互いを尊ぶため。
- ・ Iコリント13章:賜物がどれほど立派でも、愛がなければ無に等しい。愛は「相手の益」を選ぶ。
- ・ Iコリント14章:愛に基づいて、礼拝の場で賜物をどう用いるか(教会を建て上げるため)。

I. 本論1 愛によって教会を建て上げる賜物を求めよ(14:1-5)

1) 二つの命令(14:1)

- ・ 「愛を追い求めなさい」
- ・ 「御靈の賜物、特に預言を熱心に求めなさい」

2) なぜ預言が強調されるのか

- ・ コリント教会の課題:異言偏重(靈的さの証拠のように見なす風潮)

3) 異言と預言の違い(14:2-5)

- ・ 異言:神様に向かう/理解されにくい/自己の成長(解き明かしがあれば益になる)
- ・ 預言:人に向かう/理解される/教会の成長(育て・勧め・慰め)
- ・ 結論:愛は自分で終わらず、教会の益を選ぶ。ゆえに預言を求めよ。

II. 本論2 教会成長に必要なのは「意味が伝わること」(14:6-12)

1) 例え① 楽器・ラッパ(14:7-9)

- ・ 音が整えられなければ「音楽」ではなく「騒音」
- ・ 合図にならないラッパは役に立たない
→ 意味が伝わらない異言は、礼拝共同体の益になりにくい

2) 例え② 言語(14:10-11)

- ・ 意味が通じないと「隔たり」を生む

3) まとめ(14:12)

- ・ 御靈の賜物を求めるなら、目的は「教会を成長させるため」
→ 自己満足ではなく、他者に届く用い方が愛

(適用例)

- ・ 祈り・分かち合いは、相手に届く声量・言葉の整えが必要
- ・ 教会に分かる形で共有し、互いに恵みを受け取れるようにする(証し・報告の例)

III. 本論 3 なぜ「分かることば」が必要か——共にアーメンするため (14:13-19)

- 1) 目的: 共同体として同じ信仰で応答する(14:16)
 - 分からなければ、初心者はアーメンできない
 - 2) 「靈」だけでなく「知性」も用いる(14:14-15)
 - 知性は御靈の働きを妨げるのではなく、実を結ばせるために用いられる
 - 3) パウロの愛の選択(14:19)
 - 教会では「一万の異言」より「五つの分かることば」
→ 一致と成長を選ぶのが愛
-

IV. 本論 4 大人としての配慮をもって用いよ(14:20-25)

- 1) 勧め(14:20)
 - 悪事においては幼子、考え方においては大人
 - 2) 旧約の引用(14:21-22:イザヤ 28 章)
 - 分からない言葉(異国の舌)は、拒絶・裁きのしるしとして用いられた背景
 - 3) 礼拝に来る「初心者・未信者」への配慮(14:23)
 - 異言が前面に出ると「気が変になっている」と受け取られ得る
 - 4) 預言(分かることば)がもたらす実(14:24-25)
 - 罪が示され、心が照らされ、悔い改めへ導かれる
 - 結果:「神が確かにあなたがたの中におられる」と告白し、神様を礼拝する
-

【結論】愛は「教会が建て上げられること」を選ぶ

- 派手さ・自己満足より、人に届く形での励まし・慰め・育てを選ぶ(預言を求めるよ)
- 礼拝は「みんながアーメンできる」ように整えられるべき
- 礼拝には初心者・未信者が来る前提がある
→ 分かる形で御言葉が語られるとき、神様の臨在が示され、礼拝へ導かれる

【応答の問い合わせ】

- 今しようとしていることは兄弟姉妹を建て上げるか
- 初心者にも意味が伝わるか
- 皆がアーメンできるか

結びの御言葉(14:12)

- 御靈の賜物を求めるなら、教会を成長させるために豊かに与えられるよう求めよう